

2019年度 大阪星光学院 学校評価

1 めざす学校像

1. 学校教育基本方針

キリスト教の立場から人間と社会をともに考えていくことにより、高い倫理観と確固たる人生観を持った人間の育成をめざす。

2. 学校教育目標

学院生活を通じて徳性を養い、知性を磨き、社会性を身につけ、真に気品ある人物を養成することにある。

2 中期的目標

1. 教室を家庭に（家庭的雰囲気の促進）

サレジオ会の支部（「casa」）として、教育機関と同時に親しい雰囲気のあふれた家庭であることを目指す。合宿などを通して、家庭的な雰囲気や、先生と生徒、そして生徒同士の間の信頼関係を培う。心の教育を土台として知的な教育につなげていく。

(1) 出会いを育む

新しい出会いを大切にして、それを深め、より良いものへと育てゆき、大阪星光学院を家庭的雰囲気にあふれた場にしていく。

教職員と生徒の縁、生徒同士の縁、教職員同士の縁などの人間関係を通して、一人一人が人間として成長することを目指す。

(2) 道理に基づく指導を行う

青少年を一人の大人として扱い、一方的で強制的な指導を避ける。過ちを犯した生徒に何が悪かったのかを指摘し、理解、納得してもらい、そして今後の処置や指導に合意してもらうことが重要である。また、できるだけ個人的に注意する。生徒に対する怒りをコントロールし道理に基づいた指導を行うことにより、生徒が先生に対する信頼を高め、指導に素直に従うようにさせる。

(3) チームワークをもち互いに高め合う

先生はいつも生徒の生活全体を見る教育者である。これは全人教育の基本原則である。一人の生徒は、時間によって、また担当者によって分割されるものではなく、あくまでも一つの人格である。そこには先生方の指導理念の一致と、お互いの間の協力、チームワークが必要である。その上で、相互研修等を行うことにより、資質の向上を図る。

2. 高校入学試験改革の推進、中学校特別選抜入学試験の実施

来年度（2020年度）以降の高校生募集形態の検討と改革をしていく。

中学校入学試験において、城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。

(1) 募集形態とカリキュラムの検討

高校からの入学生の募集をどの程度の規模にするのか検討する。選抜試験の内容、選抜方法等について検討する。

中学校、高等学校におけるクラス数および各クラス定員を検討する。

クラス数、クラス定員の変化に伴い担当者数や教科担当者の配置を検討する。

(2) 特別選抜入学試験の実施

城星学園小学校の生徒に対し、特別選抜入学試験を実施する。

3. 高大接続システム改革に伴う検討および新教育課程の内容の検討

2021年度から実施される「大学入学共通テスト」について、高大接続システム改革会議の内容についての研究会などに参加して情報を収集し、今後のカリキュラムに反映させる。合わせて、新教育課程の内容について情報収集、分析を行う。

(1) 実施時期、テスト内容等の情報収集、新教育課程の内容等の情報収集

(2) 高大接続システム改革の内容を分析、新教育課程の内容の分析

(3) 本校のカリキュラム検討、変更

4. 学校内ネットワークの整備および教育機器の改善と ICT 教育の充実

学院内のネットワークを整備することにより教職員の仕事の効率アップを図る。

学院内の教育機器の改善、整備を行うとともに ICT 教育の充実を図る。

5. ポストン研修、S L I C E プログラムの実施

(1) 夏期休暇に高校 2 年生希望者対象に、ポストン研修を実施する。

ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学の研究施設を訪問し、見学および研修を実施する。

(2) 夏期休暇中にハーバード大学の学生を本校に招き、S L I C E プログラムを実施する。

6. 教務システムの改善

教務システムの老朽化に伴い、成績処理システムをはじめ教務全体のシステムの再構築を行う。

外部業者を入れ、本校の教務にあったシステムを構築し、来年度より導入する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教室を家庭に	<p>(1)アッシステンツァの実現</p> <p>(2)教室等における生徒へのきめ細かい指導</p> <p>(3)特別活動に積極的に関わり、生徒の自主性・実践的に活動する態度を育てる</p> <p>(4)教育活動等における教職員間の連携、協力体制の強化。相互研修により資質を高める。</p>	<p>ア 教室、クラブ、南部学舎、黒姫山荘等においてアッシステンツァを行う。</p> <p>イ 教室において生徒一人一人の状態を把握したクラス運営、授業を行う。</p> <p>ウ 生徒、保護者と個人面談をできるだけ複数回行い、相互理解と問題の早期発見に努め、解決する。</p> <p>エ 「いじめ」のアンケートを実施し、クラス内の「いじめ」を早期に発見し解決する。</p> <p>オ クラブ活動に積極的に参加し、生徒と一緒にいる時間を増やす。</p> <p>カ 体育大会やスクールフェア（文化祭）等で生徒のバックアップを行う。</p> <p>キ 管理職の校内巡回を行い、生徒に声をかける。</p> <p>ク 生徒の質問に出来るだけ答えるような体制を作る。（場所、時間）</p> <p>ケ 放課後の自習室を開放する。</p> <p>コ クラス運営、学校行事等における教職員の相互の連携を強め、協力体制を強化する。相互研修により、資質を高める。</p>	<p>ア 自己診断表における達成度 80%以上。 （平成 30 年度 80%）</p> <p>イ 自己診断表における達成度 100%。 （平成 30 年度 75%）</p> <p>ウ 生徒、保護者との個人面談を年 2 回以上する。 （平成 30 年度 2.2 回）</p> <p>エ 「いじめ」のアンケートを年 1 回以上実施する。（平成 30 年度 1 回）</p> <p>オ 自己診断表における達成度 80%以上。 （平成 30 年度 76%）</p> <p>カ 自己診断表における達成度 70%以上。 （平成 30 年度 74%）</p> <p>キ 校内巡回を週 2 回以上行う。 （平成 30 年度週 2 回）</p> <p>ク 自己診断表における達成度 80%以上。 （平成 30 年度 74%）</p> <p>ケ 自習室利用率 60%以上をめざす。 （平成 30 年度 50%）</p> <p>コ 自己診断表における達成度 80%以上。 （平成 30 年度 70%）</p>	<p>ア 達成度は、85%であった。より一層の啓発を行いたい。（◎）</p> <p>イ もっとも大切な課題であるので 100%を求めたが、現実には 70%止まりであった。より一層の努力が必要である。（△）</p> <p>ウ 生徒、保護者ともに個人面談の平均回数は、2.3 回であった。より一層努力したい。（◎）</p> <p>エ 「いじめ」のアンケートを 9 月に 1 回実施し、いじめの発見、対処を行った。来年度は、回数を増やしていきたい。（○）</p> <p>オ クラブ活動だけではなく特別活動全般に教員が積極的に参加し、達成度は 80%にアップした。（◎）</p> <p>カ 生徒協議会活動を始め、学校行事全般に積極的に教員が関わり、活性化した。達成度は 74%である。継続してほしい（◎）</p> <p>キ 校内巡回は週 2 回以上は行われた。来年度からは回数を増やしたい。（◎）</p> <p>ク 職員室等で生徒への質問指導は頻繁に行われて、達成度は 78%に上昇した。より一層の努力が必要である。（○）</p> <p>ケ 自習室利用率は 50%程度であったが、利用者は充実した勉強を行っていた。来年度も 60%をめざして実施したい。（△）</p> <p>コ 達成度は 76%であった。より一層の協力を進めていきたい。（○）</p>
2 中学・高校入学試験改革の推進	<p>(1)高校入学試験を新しい選抜方法で実施</p> <p>(2)募集形態の変更</p> <p>(3)中学校、高等学校のクラス編成、カリキュラムの検討</p> <p>(4)中学校入学試験における城星学園小学校特別選抜入試の実施</p>	<p>ア 選抜試験を元の形に戻し、面接は専願のみ実施して入学者選抜を行う。</p> <p>イ 募集形態は、専願と併願で約 10 名とした。</p> <p>ウ 高校入学者減少に伴う高校のクラス編成、カリキュラムを検討する。</p> <p>エ 城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。</p>	<p>ア 新しい形式の高校入学試験を実施した。達成度 80%以上 （平成 30 年度 80%）</p> <p>イ 募集形態は、専願と併願で約 10 名募集した。（平成 30 年度 80%）</p> <p>ウ 高校のクラス編成、カリキュラムを検討する。達成度 80%以上。 （平成 30 年度 80%）</p> <p>エ 中学校入学試験で特別選抜試験を実施する。達成度 80%以上 （平成 30 年度 100%）</p>	<p>ア 新しい形式の選抜試験を実施した。10 名受験し合格者は 8 名であった。達成度 80%（○）</p> <p>イ 出願者は 11 名で、専願 1 名併願 9 名が受験した。合格者は、8 名であった。達成度 80%（○）</p> <p>ウ クラス編成は、学年全体の人数が 197 名のため、5 クラス体制にした。達成度 80%（◎）</p> <p>エ 城星学園小学校の生徒に対し、特別選抜入学試験を実施した。9 名の生徒が受験し、9 名合格し入学した。達成度 100%（◎）</p>
3 高大接続システムの検討	<p>(1)高大接続システム改革会議の内容の情報収集</p> <p>(2)高大接続システムの分析</p> <p>(3)新教育課程の内容の情報収集および分析</p> <p>(3)本校のカリキュラムの検討</p>	<p>ア 高大接続システム改革会議関連の研究会に参加し情報を収集するとともに、他校の対応状況も調査、研究する。</p> <p>イ 高大接続システムの内容を分析し、高校として改革必要事項を検討する。</p> <p>ウ 新教育課程の情報を収集し、分析を行い、新しいカリキュラム変更点を検討する。</p> <p>エ 具体的なカリキュラムの研究、変更を行う。</p>	<p>ア 自己診断表における達成度 80%以上 （平成 30 年度 80%）</p> <p>イ 自己診断表における達成度 80%以上 （平成 30 年度 80%）</p> <p>ウ 自己診断表における達成度 80%以上 （平成 30 年度 80%）</p> <p>エ カリキュラムを変更して実施した。達成度 80%以上。 （平成 30 年度 80%）</p>	<p>ア 達成度は 80%。ほぼ判明してきたが、直前になって内容の変更が行われた。対応したい。（◎）</p> <p>イ 改革必要事項の洗い出しは出来た。直前になって、共通テストへの英語外部試験の導入中止や記述型試験導入中止が発表されて、混乱した。達成度 80%（◎）</p> <p>ウ 新教育課程における課題が見つかった。今後さらに研究していきたい。達成度 80%（◎）</p> <p>エ 昨年度より中学英語科のカリキュラムを変更して実施した効果が見られた。それ以外の教科に対しても継続的に検討していきたい。達成度 80%（◎）</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 学内環境の整備	(1)プロジェクターの導入 (2)ICT教育の充実を図る	ア 授業用のプロジェクターを複数台導入し、授業に活用する。 イ ICT教育委員会を立ち上げ、本校におけるICT教育を検討する。	ア 授業用プロジェクターを複数台導入し活用。達成度100% (平成30年度100%) イ ICT教育委員会を立ち上げ、本校におけるICT教育を検討する。達成度100%(新規)	ア 授業用プロジェクターを複数台導入し、授業に活用した。達成度100%。(◎) イ ICT教育委員会を立ち上げ、本校における今後のICT教育の内容や実施方法等を研究し実践した。立ち上げの時期が遅くなり、実践にはなかなか至っていなかった。達成度60%
5 ボストン研修	(1)ボストン研修を実施する (2)SLICEプログラムを実施する	ア 夏期休暇中、高校2年生の希望者を対象にハーバード大学とマサチューセッツ工科大学の研究室を訪問し、研修を実施する。 イ ハーバード大学の学生を招き、SLICEプログラムを実施する	ア ボストン研修が計画通り実施された。達成度100% (平成30年度100%) イ ハーバード大学の生徒を招き、高校1年生2年生対象にSLICEプログラムを実施する。達成度100%(新規)	ア 夏期休暇中に、高校2年生10名でボストン研修を実施した。昨年とは業者を変えて実施した。今年度も実り多い研修が実施できた。達成度、満足度100%(◎) イ SLICEプログラムを実施した。来年度も継続的に実施したい。達成度100%(◎)
6 教務システムの改善	(1)教務システムの再構築 (2)入試処理システム改善	ア 成績処理システムや指導要録、調査書作成等の教務システムの改善を図るため、システムを外注する業者の検討、システム選定。 イ 同時に入試処理システムの改善	ア 教務システムの比較検討を円滑に進め、今年度中にシステム、業者を決定する。達成度100%(新規) イ オプションとして、入試システムも外注。	ア 教務システムのデモを数社に依頼し検討した。検討は順調に進み選定することができた。来年度は、新しいシステムへの移行を試みる。達成度100%(◎) イ オプションも同時に組み入れられた。満足度100%(◎)

4 学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>【教育課程・学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> サレジオ会の教育基本理念であるアッシステンツァの考え方に基づき教室や合宿施設等で、今年度重点目標はほぼ実現されたと考えている。教員の協力体制においては、自己診断表で平成30年度の72%から76%に増加した。連絡調整会議を分掌間で細目に開くなどして、より一層の連携をしていかななくてはならない。 教科において、研究授業等の授業研究の達成度は72%であった。生徒が向上できるように工夫した授業が展開できるようにより一層努力しなければいけない。 高校募集の問題は、専願合格者1名、併願合格者7名計8名、入学者は7名という結果に終わった。今年度の反省を生かし、継続審議してより良い募集が実施できるようにしたい。 「大学入学共通テスト」の全容が見えてきた。しかし、直前になって、英語の外部検定試験の導入中止や記述型入試の見直しが発表されて非常に混乱した。内容を継続して調査し、生徒が混乱しないように指導していきたい。 教員研修は、全体研修は充実しており、昨年と変わらず達成度70%を維持している。学外研修も昨年同様達成度70%以上を維持している。ただ、教員相互の授業参観などによる授業研究の面では、まだまだ実現されていない。今後、相互研修を進めていきたい。 <p>【教育環境の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業用のプロジェクターを複数台導入し授業に活用した。 ICT教育委員会を立ち上げ、本校におけるICT教育の実施形態を検討した。今後も続けていきたい。 <p>【ボストン研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度もボストン研修を実施した。高校2年生10名が参加した。ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学等の研究室を回り、実り多い研修を実施できた。来年以降も継続実施していきたい。 SLICEプログラムを高校1年生、2年生対象に実施した。実り多い研修が実施できたと考えている。継続実施したい。 <p>【教務システムの改善】</p> <p>老朽化に伴う教務システムの入れ替えを図った。1年間かけて慎重に外注先や内容を検討した結果、良いシステムを再構築できそうだ。来年以降、現システムから移行したい。</p>	<p>【第1回(6月1日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学の結果は、本年度の目標に沿ってクラス運営がされていることを確認した。 卒業生の大学進学結果は、志望傾向が変化している。生徒の志望を踏まえ、今年度も継続して学習指導してもらいたい。 <p>【第2回(12月23日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に対するアッシステンツァについては、大いに評価できる。今後も、かわらず継続してほしい。 学内の環境整備について、いくつかの提言がなされた。校舎の温度調整に配慮してほしい。ロッカーの位置は、出席番号順でなく背の高さの順にしてほしい。 制靴及び制服について、いくつかの提言がなされた。制靴をリュックにしてほしい。制服の素材をドライ素材に出来ないか。 学校情報の発信について、いくつかの提言がなされた。ホームページに保護者のみがバナーを開設し、修学旅行などの写真をアップしてほしい。 大学の合格実績を宣伝してほしい。 学校行事についていくつか提言がなされた。スクールフェアの飲食ブースを増やしてほしい。 海外研修についていくつかの提言がなされた。ボストン研修を続けてほしい。成績順でなく、もっとチャンスを広げてほしい。 学校食堂のメニューについて、検討してほしい。 スマートフォンの危険性について、生徒と保護者向けにそれぞれ講習会を開いてほしい。 <p>【第3回(3月18日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育に関する今年度の目標は、概ね達成されていると判断する。 環境整備については、来年度も継続的に実施してほしい。 「いじめ」のアンケートに基づき、早期発見処置がなされている。来年度も継続的に「いじめ」の防止に努めてほしい。

